

時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。

御言葉：Ⅱ テモテ 4:1-8

要 節：4:2 「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。

忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

みなさん、おはようございます。

先週の御言葉を覚えていますか。

2026 年、札幌に仲間が2人加わり、緒に苦しみをともしにする仲間が出来ました。

キリストイエスの立派な兵士として、福音のために、毎日毎日苦しみの中で、勝利を得る Bible 塾、今年一年、NO CROSS NO CROWN 言い換えれば、CROSS and CROWN を得る OneTeam となりますように祈ります。

そして、今日は OneTeam として、今年一年を通して、継続し続け、成長し続けるための御言葉を学びたいと思います。

タイトルは、「時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。」です。

1 節をみてみましょう。

「4:1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。」

まず、繰り返し強調された言葉があります。

それは、「御前で、」です。

神の御前で、イエス・キリストの御前で、という言葉から、使徒パウロは、自分がどのような思いを持って、テモテに、何を伝え、命じたいのかがわかります。

私たちは、厳かになるしかない方の御前に立っていると、だれもが、厳かな気持ちになり、自分自身は誰なのか、自分は何者なのかについて、考えてしまうと思います。

ましてや、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前にいるのです。

使徒パウロは、自分の人生に現れてくださり、自分の人生を完全に変えてくださったイエス様が、神の御国で、自分を待っていることを思いながら、厳かな気持ちなのです。

この使徒パウロの手紙を読みながら、テモテ自身も、神の御前で、イエス様の御前で、

自分が誰なのか、何者なのかについて、しっかり考えてほしいと、厳かに、願い、命じています。

では、テモテは、神の御前で、イエス様の御前で、誰であり、何をすべき存在なのでしょう。

2 節をみてみましょう。

「4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

テモテは、神様の御前で、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、みことばを宣べ伝えるべき者です。

どのように、みことばを宣べ伝えるべきかというと、

「**時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。**」

ここでの「時」とは、単純な時間のことを言っているのではなく、

何かをするための、限られたタイミングのことを言います。

一つの例として、種を蒔くには、冬でもなく、夏でも、秋でもなく、春先の限られた時期に、種を蒔かなければなりません。

「**時が良くても**」とはその通りですが、気になるのは「**時が悪くても**」「**しっかりやりなさい**」というのは、なぜでしょうか。

先ほど例としてあげたことですが、種を蒔く時が悪いのに、冬なのに、夏や秋なのに、

時が悪いのに、種蒔きをするように、御言葉を宣べ伝えなさいと、

しかも、しっかりやりなさいと言っています。

時が悪いときに、種蒔きをすると、どうなりますか。

蒔かれた種は、芽が出ない可能性が高く、芽が出たとしても生育不足で弱くなり、病気にかかって死んでしまいます。

御言葉を、悪い時にも宣べ伝えることとは、聞く人の心の中で、せっかく宣べ伝えたみことばが、そのようになってしまうことをいいます。

だれも、自分が一所懸命宣べ伝えたみことばが、芽も出なくて、芽が出ても弱く、すぐ病気にかかって死んでしまうような状態になることは願いません。

それをみると、二度とやりたくないと思う気持ちが強くなり、良いときさえも何もやりたくない、何もやれなくなりやすいです。

それでも、それにも関わらず、使徒パウロは、テモテに、私たちに、

「**時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。**」と、厳かに命じています。

しっかりやりなさいとは、英語で、今すぐにとりかかる、即座で行動しなさいという意味です。すなわち、すぐにとりかけられるように、即座に行動するために、常に準備をしておきなさいという意味です。

そして、「**忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。**」と言っています。

この「**忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。**」の中で、私たちは、「時が良くても悪くてもしっかりやる」真の教師の姿を見ることができます。

今は誰からも評価されず、心を閉ざしているような人々には役に立たない無駄な努力をしているような、悪い時にも、真の教師は、常に教え、いつでもすぐ教えるように、常に最善を尽くして、準備をします。

そして、「忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧め」るのです。
それでは、テモテは、私たちは、なぜ、このように、真の教師として生きるべきですか。
それは、3, 4 節にあります。

「4:3 というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、

4:4 真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。」

ここで、時代とは、Season のことをいいます。

2 節の、良い時の次に来る、時が悪い時期、時代のことです。

どんなに教えても、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代に、時が悪い時代には、何もしなくない、何もできない、やれることは一つもないようになってしまいます。

しかし、使徒パウロは、テモテに、私たちに、厳かに、命じています。

「4:5 けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。」

使徒パウロは、自分が神様の御前で、イエス様の御前で、自分が誰なのか、何をしなければならない使命をもっている存在なのか、しっかり自覚していました。

彼は、自分自身を、伝道者であること、神様から、イエス様から伝道者の務めを命じられていることを、しっかり自覚していました。

伝道者とは、エバンジェリスト (Evangelist) です。

新しいこと、難しいことを、分かりやすく説明し、それがもつ意義を啓発し、それを普及させる人です。

例えば、多くの人々は、いまだに、AI のことをよくわからないのです。

Ai の伝道者は、AI が何かを分かりやすく説明し、AI が持つ時代や社会、そして、私たちの生活の中でどのようなことができるのか、それがなぜ必要なのかの意義を、気づかせ、理解させ、AI への抵抗感をなくし、それを自然と使うように、分かりやすく伝える人だと思います。

使徒パウロは、自分の務めが「伝道者」である自覚をしていました。

テモテが、私たちは、時代の教師として、伝道者として、時が良くても、悪くても、すぐに伝えられるように準備し、

忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧め、

どんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たすことを、神様の御前で、イエス様の御前で、厳かに命じています。

彼は、自分がこの世を去る時が来ていることを言い、

4:7 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。と言い切ります。

使徒パウロは、1 節から 7 節で、神様の御前で、イエス様の御前で、自分が誰なのか、自分の務めは、自分の使命は、自分という存在は何をすべきかについて、伝えています。
どんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道すべき伝道者であり、
時が良くても悪くてもしっかり準備する農夫であり、
勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通すべき兵士であり、
忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧める教師です。
彼は、伝道者であり、農夫で、兵士であり、教師の務めを十分に果たしたと言い切っています。
そんな彼が得るものは、「義の栄冠」です。

「4:8 あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。」

これは、王の王冠ではありません。

主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださる、「義の栄冠」です。

その人が、生きている人であっても、死にかけている人やもうすぐ死んでいく人でも、死んだ人でも、だれにでも、「義の栄冠」を授けてくださいます。

私たちは、マラソン優勝者の栄冠には、

この世のすべての賞、栄冠には、何の業績が、何の大会で優勝して、授けられたのかの、タイトルが書いてあります。

使徒パウロが、テモテが、私たちが授けられる賞のタイトルは、「義の栄冠」です。

「義の栄冠」、よく考えてみると、何か違和感がありませんか。

そもそも、義とは、何でしょうか。

義という言葉が聖書に初めて登場したのは、創世記 15 章 6 節、

「15:6 アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。」の御言葉です。

義とは、私たちが努力して得られるものではありません。

罪人である私たちの心には、義を自分で持ち続けられません。

神様がくださる義の栄冠、その義は神様が一方的に認めてくださり、与えて、得させるものです。

使徒パウロが、伝道者であり、農夫で、兵士であり、教師の務めを十分に果たした、その代価として、「義の栄冠」を、自分の手でもぎ取るものではありません。

8 節をよく読んでみましょう。

「4:8 あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。」

神様が、生きている人と死んだ人を裁かれるイエス様が、使徒パウロのために、用意してくださるのです。

自分が、自分自身を自覚し、自分の務めを十分に果たす人に、

「義の栄冠」を用意してくださる、神様を、イエス様を信じているのです。

神様を、生きている人と死んだ人を裁かれるキリスト・イエスを信じる誰にでも用意してくださ

います。

今年、私たち Bible 塾・札幌 UBF は、心一つにして、御言葉と祈りによって、OneTeam になることを目標としています。

OneTeam とは、同じ方向を見ていること、互いを信頼し、助け合うことで、一つのチームになるのです。

そのためには、まず、自分が誰なのか、どんな使命、どんな役目を果たすべきかを、考えるべきだと思います。

自分のことだけ考えてもいけません。

Bible 塾とは、何か、この世で、どんな使命、どんな役目を果たすべきかも、考えなければなりません。

私たちは、新しく出発する、新しい Bible 塾となりました。

私たちが、神様の御前で、生きている人も死んだ人も裁かれるイエス様の御前で、私たちは、OneTeam です。

私たちが、この時代における Bible 塾への自覚、自分自身の自覚をしましょう。

時が良くても悪くても、しっかり準備し、この時代においての Bible 塾の務め、私たち一人ひとりの務めをしっかりと果たすとき、

私たち Bible 塾は、この 2026 年 OneTeam となり、主が用意してくださった「義の栄冠」を得ることができるよう切に祈ります。